

研究業績リスト

東京大学大学院教育学研究科 博士後期課程 佐宗 駿

2025年10月13日

1 学術論文誌（査読付き）

- [1.1] 佐宗 駿・岡 元紀・宇佐美慧 (2024). 小サンプルサイズ下での認知診断モデルの推定精度の検討：モデルの誤設定の影響と推定法の違いに着目して. 統計数理. 72(1), 121–146. <https://www.ism.ac.jp/editsec/toukei/pdf/72-1-121.pdf>
- [1.2] 佐宗 駿・岡 元紀・植阪 友理 (2023). 認知診断モデルを活用した理解の深さの診断と定期テストへの応用：定性的・定量的な Q 行列の設定とモデルの実践的有用性の検討. 認知科学, 30(4), 515–530. <https://doi.org/10.11225/cs.2023.057>
- [1.3] Oka, M., **Saso, S.**, & Okada, K. (2022). Variational inference for a polytomous-attribute saturated diagnostic classification model with parallel computing. *Behaviormetrika*, 50, 63–92. <https://doi.org/10.1007/s41237-022-00164-0>
- [1.4] 植阪 友理・内田 奈緒・佐宗 駿・柴 里実・太田 絵梨子・劉 夢思・水野 木綿・坂口 卓也・富田 真永 (2022). 自学自習を支援する「オンライン学習法講座」の開発と高校での実践—オンライン学習に応じた指導上の工夫とその効果—. 教育心理学研究, 70(4), 404–418. <https://doi.org/10.5926/jjep.70.404>

2 学術論文誌（査読なし）

- [2.1] 佐宗 駿 (2023). 学習者の理解状況とモニタリング能力の定量的診断法の提案：認知診断モデルと信号検出理論に基づく数理的アプローチ, 東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センター 研究紀要, 8, 147–162

3 学術論文誌（投稿中・Preprint）

- [3.1] **Saso, S.**, Kato, T., Oka, M., Shiba, S., & Usami, S. (2025). A sequential general nonparametric classification method for polytomous responses. *PsyArXiv*, https://doi.org/10.31234/osf.io/7qd5y_v1
- [3.2] Shiba, S., **Saso, S.**, & Sakaguchi, T. (2025). Co-designing feedback on school tests to support learning strategies: Researcher-teacher collaboration in a high school
- [3.3] Yamaguchi, K., Mitsunaga, H., **Saso, S.**, & Uesaka, Y. (2025). Tracking attribute mastery change among individuals: Longitudinal diagnostic classification models with random intercepts. *PsyArXiv*, https://doi.org/10.31234/osf.io/ze83g_v1
- [3.4] Yamaguchi, K., Mitsunaga, H., **Saso, S.**, & Uesaka, Y. (2024). Predicting individual learning growth through learning diagnosis: Assessing with random effect diagnostic classification multilevel growth curve model. *PsyArXiv*, <https://doi.org/10.31234/osf.io/4puza>
- [3.5] **Saso, S.**, Oka, M., Uesaka, Y., & Usami, S. (2024). Diagnostic assessment of deep understanding using cognitive diagnostic models: A large-scale assessment to promote the use of effective learning strategies. *PsyArXiv*, <https://doi.org/10.31234/osf.io/hk5y2>

4 国際会議（査読付き）

- [4.1] Kato, T., Saso, S., & Usami, S. (2025). Examining the occurrence of paradoxical scoring in cognitive diagnostic models [Oral Presentation]. International Meeting of Psychometric Society (IMPS) 2025, Minneapolis, MN, USA, 14-18 July 2025.
- [4.2] Yamaguchi, K., Mitsunaga, H., Saso, S., & Uesaka, Y. (2025). Development and application of the random effect diagnostic classification multilevel growth curve model [Oral Presentation]. International Meeting of Psychometric Society (IMPS) 2025, Minneapolis, MN, USA, 14-18 July 2025.
- [4.3] Shiba, S., & Saso, S. (2024). Development and implementation of feedback in regular test to encourage improvement in learning strategies: A quasi-experimental study in a middle-school [Individual Paper presentation]. The European Association for Research on Learning and Instruction (EARLI) SIG 18 2024, Nicosia, Cyprus, 23–25 August 2024.
- [4.4] Saso, S., & Uesaka, Y. (2023). Statistically gauging vital subcomponents of diagrammatic competency [Poster presentation]. The European Association for Research on Learning and Instruction (EARLI) 2023, Thessaloniki, Greece, August 2023.
- [4.5] Saso, S., Oka, M., & Uesaka, Y. (2023). Development of assessment tools for depth of understanding quantitatively with cognitive diagnostic models. [Poster presentation]. In Advances in Information and Communication: Proceedings of the 2023 Future of Information and Communication Conference (FICC), Volume 1 (pp. 766-774). Cham: Springer Nature Switzerland, March 2023.
- [4.6] Uesaka, Y., Saso, S., & Akisawa, T. (2021). How can we statistically analyze the achievement of diagrammatic competency from high school regular tests? [Poster presentation]. In Diagrammatic Representation and Inference: 12th International Conference, Diagrams 2021, Virtual, September 28–30, 2021, Proceedings 12, pp. 562-566. Springer International Publishing, 2021, September 2021.
- [4.7] Saso, S., Oka, M., & Uesaka, Y. (2021). How can we statistically gauge students' deep understanding from high school regular tests? [Poster presentation]. Junior Researchers of European Association for Research on Learning and Instruction (JURE) 2021, Online, August 2021.
- [4.8] Oka, M., Saso, S., & Okada, K. (2021). Parallelized variational Bayesian algorithm for the polytomous-attribute saturated diagnostic classification model [Oral presentation]. World Meeting of the International Society for Bayesian Analysis (ISBA) 2021, Online, June 2021.

5 国内会議（査読付き）

- [5.1] 佐宗駿・岡元紀・植阪友理 (2022). 理解の深さの定量的評価を目指した認知診断モデルの応用とそのプロセスの提案-心理学・教科教育の知見と Q 行列推定を活かした Q 行列作成-, 日本認知科学会第39回大会 日本認知科学会第39回大会発表論文集, p283-291, 2022年9月

6 国内会議・研究会・全国大会等

- [6.1] 佐宗駿 (2025). 認知診断モデルを活用した項目作成と Q 行列設計. 日本教育心理学会第67回大会 会員企画シンポジウム「テスト項目の作成と統計分析—多枝選択式・記述式と認知診断—」(話題提供者), アクトシティ浜松. 2025年10月
- [6.2] 加藤剛・佐宗駿 (2025). 学習者の多層的な能力をいかにして診断するか?: 小サンプルサイズでも活用可能なノンパラメトリック DeepCDM の提案と実証 [ポスター発表], 日本教育心理学会第67回大会, アクトシティ浜松. 2025年10月
- [6.3] 坂本佑太朗・山田香・肖雨知・佐宗駿 (2025). 認知診断モデルの360度フィードバックへの応用と実践: 個別最適な行動改善レコメンドの試み [ポスター発表], 日本教育心理学会第67回大会, アクトシティ浜松. 2025年10月

- [6.4] 佐宗駿・加藤剛・岡元紀 (2025). クラスルームテストにおける段階反応をいかにして学習診断に活用するか？一小標本と段階反応に対応可能な診断分類モデルの提案と実証—[口頭発表], 日本テスト学会第23回大会, 東京大学. 2025年9月
- [6.5] 加藤剛・佐宗駿・宇佐美慧 (2025). 項目プールを活用した診断分類モデルの適用上の留意点：学級場面での逆説的スコアリングの生起頻度に着目して [口頭発表], 日本テスト学会第23回大会, 東京大学. 2025年9月
- [6.6] 肖雨知・坂本佑太朗・山田香・佐藤夏月・佐宗駿 (2025) 管理職の行動改善を目指したレコメンド手法の開発－認知診断モデルを用いた職務遂行スキルの獲得順序を考慮して－ [口頭発表], 日本テスト学会第23回大会, 東京大学. 2025年9月
- [6.7] 柴里実・佐宗駿 (2025). 学校の定期テストにおける認知診断モデル活用の試み. 日本テスト学会第23回大会企画シンポジウム2「認知診断モデルを実践で活用する」, 東京大学. 2025年9月
- [6.8] 山口一大・光永悠彦・佐宗駿・植阪友理 (2025). 診断分類モデルによる個人の学力成長の予測のための枠組みの提案. 日本テスト学会第23回大会 大会企画シンポジウム2「認知診断モデルを実践で活用する」, 東京大学. 2025年9月
- [6.9] 加藤剛・佐宗駿・岡元紀 (2025). 一般化ベイズ法による逐次一般ノンパラメトリック分類法の拡張 [口頭発表], 日本行動計量学会第53回大会, 専修大学. 2025年8月 (最優秀大会発表賞受賞)
- [6.10] 加藤剛・佐宗駿・岡元紀 (2025). 多値型反応に対する逐次一般ノンパラメトリック分類法の提案 [口頭発表], 日本計算機統計学会第39回大会, 鹿児島県民交流センター. 2025年6月
- [6.11] 植阪友理・佐宗駿・新保俊文・永元隆雄・森田哲郎 (2024). 産官学連携による深い学びの視点を取り入れた全国学力調査の質的項目分析：認知診断モデルによる理解の深さの診断と学校教育への展開 (1)[ポスター発表], 日本教育心理学会第66回大会, アクトシティ浜松. 2024年9月
- [6.12] 光永悠彦・佐宗駿・植阪友理 (2024). IRTによる小学校段階での学力の成長とつまずきの同定：認知診断モデルによる理解の深さの診断と学校教育への展開 (2) [ポスター発表], 日本教育心理学会第66回大会, アクトシティ浜松. 2024年9月
- [6.13] 柴里実・佐宗駿・坂口卓也 (2024). 定期テストのフィードバックの工夫と日々の指導への活用：認知診断モデルによる理解の深さの診断と学校教育への展開 (3) [ポスター発表], 日本教育心理学会第66回大会, アクトシティ浜松. 2024年9月
- [6.14] 仲谷佳恵・伊藤紘一・佐宗駿・植阪友理 (2024). 学校教員が活用することを目指したWebツール CDMWebToolの開発：認知診断モデルによる理解の深さの診断と学校教育への展開 (4) [ポスター発表], 日本教育心理学会第66回大会, アクトシティ浜松. 2024年9月
- [6.15] 植阪友理[†]・佐宗駿[†]・宇佐美慧 (2024). 認知診断モデルを用いた深い理解の習得状況の解析：令和3年度全国学力・学習状況調査（数学）を用いた検討 [口頭発表], 日本テスト学会第22回大会, オンライン. 2024年8月. ([†]equal contribution)
- [6.16] 佐宗駿・柴里実 (2024). 認知診断モデルの学校現場での活用と生徒・教師の反応：学び方の改善を目指した定期テストのフィードバックの工夫 [口頭発表], 日本テスト学会第22回大会, オンライン. 2024年8月. (第18回日本テスト学会大会発表賞受賞)
- [6.17] 佐宗駿 (2024). ベイズ統計概説：「ベイズの基本的な考え方」とモデル評価・比較に向けた「周辺尤度・予測分布」の導入 [チュートリアル], ベイズ統計学勉強会2024夏, 東京大学. 2024年8月.
- [6.18] 柴里実・黒澤翼・佐宗駿 (2024). 定期テスト後の学習方法の振り返りと改善を促すフィードバックの開発と実践, 第2回教育研究交流会, 大阪大学. 2024年2月
- [6.19] 植阪友理・佐宗駿 (2023). 学力及び学習力をいかにして定量的に把握し、学習改善に結びつけるか—深い理解と図表利用力の解析から-[ポスター発表], 2023年度教育研究交流会, 京都大学, 2023年9月

- [6.20] 佐宗 駿 (2022). 理解の深さの定量的評価と教育実践への展開-認知診断モデルの実践的活用と今後の展望-, 第八回認知科学若手の会ワークショップ～いま、協同を考える～, 東京大学, 2022年10月29日
- [6.21] 秋澤 武志・佐宗 駿・植阪 友理 (2022). 主体的に学習に取り組む態度をいかにして育成するか?-授業での学びを振り返る宿題としての説明動画作成とその自己評価-[ポスター発表], 日本教育工学会2022年秋季全国大会, 2022年9月
- [6.22] 内田 奈緒・劉 夢思・佐宗 駿・植阪 友理 (2022). 自立的に学ぶ力を育成する学習法講座の実践 [ポスター発表], 日本教育工学会2022年秋季全国大会(第41回大会), カルツツカワサキ. 2022年9月
- [6.23] 佐宗 駿・岡 元紀・柴 里実・植阪 友理 (2022). 理解の深さの定量的評価とそのつまずきに応じた学習方略指導-認知診断モデルの実践的応用と生徒の反応-[ポスター発表] 日本テスト学会第20回大会, オンライン. 2022年8月9月
- [6.24] 植阪 友理・内田 奈緒・佐宗 駿・柴 里実・太田 絵梨子・劉 夢思・水野 木綿・坂口 卓也・富田 真永 (2021). 自学自習を支援する「オンライン学習法講座」の開発と高校での実践-オンライン学習に応じた指導上の工夫とその効果-[ポスター発表] 日本教育工学会2021年秋季全国大会(第39回大会)講演論文集, 193—194, 日本教育工学会. オンライン. 2021年10月
- [6.25] 秋澤 武志・植阪 友理・佐宗 駿 (2021). 「主体的に学習に取り組む態度」をいかにして育成し, 評価するか: 高校数学における定期試験のフィードバック方法に着目して [ポスター発表] 日本教育工学会2021年秋季全国大会(第39回大会)講演論文集, 423—424, 日本教育工学会. 2021年10月
- [6.26] 佐宗 駿・岡 元紀・植阪 友理 (2021). 認知診断モデルを通じた深い理解の実証的解析-大規模学力調査を用いた分析と従来の観点との比較-[ポスター発表] 日本テスト学会第19回大会発表論文集, 118-121, オンライン. 2021年9月
- [6.27] 植阪 友理・清河 幸子・竹橋 洋毅・福田 麻莉・太田 絵梨子・柴 里実・劉 夢思・内田 奈緒・佐宗 駿・池端 健・有田 いづ美・菊地 真利衣・岡本 小枝・仲間 悅子・鈴木 玲子 (2021). 心理学者はいかにして実践の場を創出し, 社会に貢献できるのか-オンライン活用も含めて発展する教育センターとの連携事業から-[自主企画シンポジウム] 日本教育心理学会第63回, オンライン. 2021年8月
- [6.28] 佐宗 駿・植阪 友理・秋澤 武志 (2021) 図表活用力を定期試験から定量的に捉えるには?-認知診断モデルを用いた資質・能力の実証的解析-[ポスター発表], 日本教育心理学会第63回, オンライン. 2021年8月
- [6.29] 佐宗 駿・岡 元紀・植阪 友理 (2021). 深い学びの評価方法の提案と定期テストへの応用-認知診断モデルの応用可能性と教師の反応-[口頭発表] 日本教育工学会2021年春全国大会, オンライン. 2021年3月
- [6.30] 佐宗 駿・犬塚 美輪 (2020). 教員養成課程学生における教員志望度の縦断的変化-教員志望度の変化はなぜ生じるのか?-[ポスター発表] 日本教育心理学会大62回総会, 開催中止・みなし発表. 2020年9月
- [6.31] 犬塚 美輪・佐宗 駿・中村 海斗 (2019). 「数学嫌い」になるのはなぜか [ポスター発表], 日本心理学会第83回大会, 立命館大学. 2019年9月

7 国内の報告書等

- [7.1] 西田 明日香・佐宗 駿・宇佐美慧 (編著)(2025) 入試追跡調査専門委員会令和6年度報告書. 東京大学入試追跡調査専門委員会 2025年3月.
- [7.2] 柴 里実・佐宗 駿(2024) 学校の定期考査における認知診断モデルの適用と学習改善, 植阪友理 (編) 教育心理学の最前線: 新たな学力・学習力の評価と教育への展開可能性—学習方略プロジェクト R5 年度の研究成果— (pp.8-15) , Working Papers, Vol. 6, 東京大学

- [7.3] 光永 悠彦・佐宗 駿・植阪 友理 (2024) IRT を用いた共通尺度化による学力の変化の補足と認知診断モデルによるつまずきの同定, 植阪友理 (編) 教育心理学の最前線:新たな学力・学習力の評価と教育への展開可能性—学習方略プロジェクト R5 年度の研究成果— (pp.27–33) , Working Papers, Vol. 6, 東京大学
- [7.4] 内田 奈緒・劉 夢思・佐宗 駿・植阪 友理 (2022) 第 3 章 自立的に学ぶ力を育成する—公立中学校での学習法講座の実践— 東京大学高大接続研究開発センター入試企画部門 —公開版— 2021 年度報告書 (pp.21–31), 東京大学.
- [7.5] 佐宗 駿(2021) 教科横断的な自立した学習サイクルの獲得支援—管理者としての保護者からリソースとしての保護者へ—, 植阪友理・清河幸子・柴里実・内田奈緒 (編), 2020 年度学習支援事例集—自立的な学習者を育てる認知カウンセリングの実践— (pp.53–72), 文京区教育センター・東京大学大学院清河研究室 (協定事業)
- [7.6] 佐宗 駿(2021) アウトプット偏重の学習から基礎基本のインプットへの立ち返り支援—英文法の形と意味と例文の理解を重点に—, 植阪友理・清河幸子・柴里実・内田奈緒 (編), 2020 年度学習支援事例集—自立的な学習者を育てる認知カウンセリングの実践— (p.103), 文京区教育センター・東京大学大学院清河研究室 (協定事業)
- [7.7] 植阪 友理・内田 奈緒・佐宗 駿・柴 里実・太田 絵梨子・劉 夢思・坂口 卓也・水野 木綿・富田 真永 (2021) こんな時代だからこそ、自学学習を支援する—公立高校での『オンライン学習法講座』の試み— 東京大学高大接続研究開発センター入試企画部門 —公開版— 2020 年度研究成果報告書 (pp.1–26), 東京大学.

8 学位論文

- [8.1] 佐宗 駿 (2022). テストの結果を日々の学習方略の改善に活かすには?—認知診断モデルによる理解の深さの定量的評価と実践への展開—, 修士論文, 東京大学
- [8.2] 佐宗 駿 (2020). 教員養成課程学生の進路選択プロセスのモデリング, 卒業論文, 東京学芸大学

9 招待講演

- [9.1] Saso, S., Oka, M., Shiba, S., & Uesaka, Y. (2022). The practical application of cognitive diagnostic models to encourage students' deep understanding and use of effective learning strategies [Oral presentation]. The 11th Conference of the Asian Regional Section of the International Association for Statistical Computing (IASC-ARS) 2022, Kyoto, Japan, February 2022.

10 競争的研究資金等の獲得

- [10.1] 2024 年 4 月～2026 年 3 月 独立行政法人日本学術振興会 特別研究員 (DC2) 研究課題『認知診断モデルによる「深い理解」の多面的かつ縦断的な診断と実践への展開』
- [10.2] 2023 年 4 月～2025 年 3 月 公益財団法人博報堂教育財団 児童教育実践についての研究助成 研究課題『学習方法の振り返りと改善を促すテストの定量的フィードバックの開発と実践への展開』(分担研究者)
- [10.3] 2022 年 6 月～2023 年 3 月 学校教育高度化・効果検証センター若手研究者育成プロジェクト, 研究課題『学習者の理解状況とモニタリング能力の定量的診断方法の提案: 認知診断モデルと信号検出理論に基づく数理的アプローチ』
- [10.4] 2021 年 9 月～2025 年 3 月 東京大学教育研究創発国際卓越大学院プログラム (WINGS-CER), 東京大学

11 受賞

- [11.1] 2025 年 8 月 日本行動計量学会第 53 回大会 最優秀大会発表賞 「一般化ベイズ法による逐次一般ノンパラメトリック分類法の拡張」
- [11.2] 2025 年 6 月 特別研究員 (DC) の採用最終年次における研究奨励金特別手当, 独立行政法人 日本学術振興会
- [11.3] 2025 年 3 月 第 18 回日本テスト学会大会発表賞 受賞 「認知診断モデルの学校現場での活用と生徒・教師の反応: 学び方の改善を目指した定期テストのフィードバックの工夫」
- [11.4] 2024 年 1 月 統計検定 専門統計調査士 優秀成績賞, 一般社団法人 日本統計学会
- [11.5] 2022 年 独立行政法人日本学生支援機構 特に優れた業績による返還免除の認定 (半額免除)

12 非常勤講師, RA, TA 等の経験

- [12.1] 2025 年 10 月 ~2026 年 3 月 東京都立大学 人文社会学部 「心理学統計法」 非常勤講師 (全 16 回)
- [12.2] 2025 年 10 月 ~2026 年 3 月 教育心理学実験演習 III・チューター テーマ『個人の変化・発達・成長についての統計的推測—縦断データ分析の学習と体験—』(東京大学教育学部教育心理学コース)
- [12.3] 2025 年 4 月 ~2026 年 3 月 早稲田大学 人間科学部 e スクール 「卒業研究ゼミ (情報) (教育データサイエンス) (春・秋)」 教育コーチ
- [12.4] 2025 年 4 月 ~2026 年 3 月 早稲田大学 人間科学部 e スクール 「教育データサイエンス専門ゼミ (春・秋)」 教育コーチ
- [12.5] 2025 年 4 月 ~2025 年 9 月 早稲田大学 人間科学部 e スクール 「教育のアセスメント理論」教育コーチ
- [12.6] 2024 年 10 月 ~2025 年 3 月 早稲田大学 人間科学部 e スクール 「教育のアセスメント理論」教育コーチ
- [12.7] 2024 年 10 月 ~2025 年 3 月 早稲田大学 人間科学部 e スクール 「教育データサイエンス専門ゼミ (秋)」 教育コーチ
- [12.8] 2024 年 9 月 ~2025 年 3 月 厚生労働行政推進調査事業補助金 地域医療基盤開発推進研究事業 保健師助産師看護師国家試験における現状の評価及び出題形式等の改善に関する調査研究 (研究代表者: 森真喜子) 分析協力者
- [12.9] 2024 年 9 月 ~2025 年 3 月 教育心理学実験演習 III・チューター テーマ「学習テストの結果をいかにして分析するか? —項目反応理論と認知診断モデルを活用した選抜や診断的評価の体験—」(東京大学教育学部教育心理学コース)
- [12.10] 2024 年 6 月 教育心理学実験演習 II・チューター 担当回『質問紙データの解析』(全 2 回) (東京大学教育学部教育心理学コース)
- [12.11] 2023 年 9 月 ~2024 年 3 月 教育心理学実験演習 III・チューター テーマ「学習テストの結果をいかにして分析するか? —項目反応理論と認知診断モデルを活用した選抜や診断的評価の体験—」(東京大学教育学部教育心理学コース)
- [12.12] 2023 年 4 月 ~2024 年 3 月 東京大学大学院教育学研究科 リサーチ・アシスタント 『算数・数学における「深い学び」を促進する授業実践・評価の統合的システムの開発』(科研基盤 B, 代表: 光永悠彦)
- [12.13] 2022 年 9 月 ~2023 年 3 月 教育心理学実験演習 III・チューター テーマ「縦断データのモデリングと変化の関係の推測—学習者の理解状況の診断とその縦断的な発達を追う—」(東京大学教育学部教育心理学コース)

-
- [12.14] 2022年4月～2023年3月 東京大学 高大接続研究開発センター リサーチアシスタント 「学力テストをいかにして授業改善につなげるか: 阻害要因の検討から学校での実践まで」(科研基盤A, 代表: 植阪友理)
 - [12.15] 2022年4月～2023年3月 東京大学 高大接続研究開発センター リサーチアシスタント 『算数・数学における「深い学び」を促進する授業実践・評価の統合的システムの開発』(科研基盤B, 代表: 光永悠彦)
 - [12.16] 2021年4月～2022年3月 東京大学高大接続研究開発センター 卓越リサーチアシスタント, 「学力テストをいかにして授業改善につなげるか: 阻害要因の検討から学校での実践まで」(科研基盤A, 代表: 植阪友理)
 - [12.17] 2020年9月～2021年3月 東京大学 高大接続研究開発センター 卓越リサーチアシスタント, 『算数・数学における「深い学び」を促進する授業実践・評価の統合的システムの開発』(科研基盤B, 代表: 光永悠彦)

13 資格

- [13.1] 2024年1月 統計検定 専門統計調査士 合格 (優秀成績賞)
- [13.2] 2023年12月 統計検定 統計調査士 合格
- [13.3] 2023年12月 統計検定 1級 合格
- [13.4] 2022年5月 実用英語技能検定準1級 合格
- [13.5] 2020年3月 小学校教諭一種免許状 取得
- [13.6] 2020年3月 中学校・高等学校教員(数学) 一種免許状 取得
- [13.7] 2019年4月 実用数学技能検定 1級 (1次) 合格
- [13.8] 2018年9月 心理学検定 1級 合格

以上.